

令和5年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 桜井高等学校アクションプラン — 1 —	
重点項目	学習活動
重点課題	・自主的・意欲的な学習態度の育成と学習時間の確保
現 状	・授業はまじめに受けている。予習や復習を含めた自主的・意欲的な学習時間の不足が見られ、学習の時間の確保や習慣化が望まれる。 ・専門学科では各種検定に向けた演習を積極的に取り組んでおり、一定の成果をあげている。
達成目標	①【普通科生徒対象】 学習時間(平日)が2時間以上の生徒の割合 80%以上
	②【土木科生徒対象】 測量士補試験・2級土木施工管理士試験の合格率 それぞれ90%以上
	③【生活環境科生徒対象】 家庭科各種検定の合格率 90%以上
方 策	・学習の記録や授業アンケート、面接を通して家庭学習の意義や必要性を促していく。 ・ICT機器の活用等、授業改善に一層取り組む。 ・総合的な探究の時間等を活用し、主体的な態度を育成する。 ・HRや進路学習などから資格取得や進路実現への意欲を喚起していく。 ・手帳を活用して授業や課題に計画的に取り組ませ、課題等を確実に提出させる。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和5年度 桜井高等学校アクションプラン — 2 —	
重点項目	学校生活
重点課題	・挨拶の励行と制服の品位ある着こなし ・SNS等の正しい使い方
現 状	・明るく挨拶をする生徒が増えているが、その一方で挨拶ができないなどの社会の一員としての行動規範がしっかりできない生徒もいる。挨拶運動（登校指導）を継続して行い、徹底したい。 ・今年度から新制服を導入し、クールビズ期間における制服の着こなしに自由選択(オプション)を設けたことで、何種類もの着用パターンが可能になった。そのため品位ある制服の着こなしを指導していく必要がある。 ・SNS等に安易に画像や情報をアップする行為が見られる。また、誹謗中傷などトラブルが発生している。
達成目標	①生徒玄関での挨拶運動と定期的な服装指導で、品位ある制服の着こなしの意識を高める機会を設ける。
	②SNSの危険性を理解しながら活用していると答える生徒の割合。 90%以上
方 策	・制服については、わかりやすく見えやすい図で示したものを準備し提示した。自ら考えて判断し、行動ができるように、HR等で学校生活におけるルールやマナーを守る意義について考えさせる。 ・全校集会やHR、スマホ・携帯安全教室などで、正しい使い方やネットの危険性を指導する。生徒会、生活向上委員会には「スマホのルール作り」を考えてもらおう。また、保護者等に協力してもらい、家庭での使用ルールを考えてもらおう。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和5年度 桜井高等学校アクションプラン — 3 —	
重点項目	進路支援（進路について関心を高め、進路目標実現を支援する）
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の早期明確化と実力養成についての効果的な手法の確立 組織的かつ計画的な生徒の実態把握の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 学習の記録や面接によって生徒の実態把握に努めているが、進路目標の設定ができず、見通しをもって計画的に学習に取り組むことができない生徒がみられる。 受験を意識した学習に取り組む始める時期が遅く、学習時間が不足している。
達成目標	①全生徒が進路や学習について複数の教員と面談し、進路目標実現に向けて考える機会
	1・2学年 年間5回以上 3学年 年間10回以上
達成目標	②卒業時点で、在学中の進路についての学習や取り組みが自分の成長に役立ったと考える生徒の割合
	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習状況や行事の振り返りシートを学年や関係者で共有し、生徒の現状把握に努める。 担任、副担任以外の教員も面接に当たり、生徒が多く教員と関わるように努める。 学年や関係者で生徒の情報交換ができる場を設定し、生徒一人一人に対する個別指導をより充実させる。 外部模試等の結果を教員間で共有し、学年会や検討会等を通して問題点や課題の共通理解を図る。 生徒の週課題、自主学習への取り組みを調査し、スタディサプリの使用等も含め、量と質の適正化を図り、家庭学習を充実させる。 進路講演会、大学出前講座、卒業生の報告会、職業体験会などを実施して、生徒の意欲の向上を図る。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和5年度 桜井高等学校アクションプラン — 4 —	
重点項目	特別活動
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 ホームルーム（HR）活動の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率・活動状況ともに高い水準を保っている。コロナ禍前の活動に少しずつ戻しながら、安全・安心な部活動運営に努めている。 HR活動では、生徒の自主性を尊重し、主体的な活動になる内容を模索している。
達成目標	①部活動に対する満足度
	80%以上
達成目標	②HR活動が学校生活の充実につながったと感じる生徒の割合
	80%以上
達成目標	③HR活動に積極的に参加した生徒の割合
	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 部長会議等を通じて、各部の部長に対しリーダーとしての自覚をもたせる。 各役員たちが必要な課題を話し合い、安全で適切な部活動ができるよう取り組んでいく。 HR活動の内容の例を示し、計画させる。 計画、運営、振り返りができるよう記録用紙を活用させる。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	その他	
重点課題	図書室利用の活性化	2学年研修旅行の充実
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 貸出数・利用者数は、ともに、ここ数年増加傾向にあるが、本を借りる生徒の固定化は否めない。 「読書センター」としての役割は果たしているが、「学習センター」「情報センター」としての役割が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路設計に向けて、生徒の関心・意欲を高めることを目的として実施している。この研修は、生徒の進路希望状況や各科の専門性も考慮したうえで企画・立案し、実施している。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 年間貸出数 ・年間利用生徒実人数 	<ul style="list-style-type: none"> 進路に対する関心・意欲が高まった割合
	1,600冊以上 440人以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員会活動を充実させ、生徒が利用したくなる図書室の工夫を継続して行う。 進路学習や総合などの探究活動の参照図書を充実させレファレンスを行う。 学年・教科担当者と連携し、授業での図書室の活動を推進していく。 多様な分野の本を選定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望や適性、社会情勢などを勘案し、より最適な研修を立案する。 生徒が研修に対して目的意識をもって積極的に参加できるように、事前学習の時間を計画的に位置づけ、指導する。 進路意識を高めるとともに、学習意欲と資格取得への意識が高まるように指導する。 めまぐるしく変化する多様化社会を担う世代であることを意識させることができる活動なども取り入れる。

(評価基準) A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった